

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

校訓 誠実・明朗

めざす学校像

- 1 生徒の夢が実現できる学校（生徒の希望する進路が実現できる学校づくり）
- 2 地域とともに歩む学校（地域から愛され信頼される学校づくり）
- 3 教職員の取組みが結実する学校（教職員が課題の共有化を図り、一丸となり課題解決に取り組むことで生徒が変容し、教職員が達成感を味わえる学校づくり）

育てたい生徒像 “3つのC”

- 創造的な人間（Creation） 学力の伸長を図り、個性豊かで創造的な人間
- 信頼される人間（Confidence） 高い知性と豊かな情操、公正な判断力を身につけ、自他を尊敬し、責任感のある人間
- チャレンジする人間（Challenge） 困難にくじけない強健な身体を育成し、向上心旺盛で何事にもチャレンジする人間

## 2 中期的目標

## 1 教育力の向上

三学期制の導入

平成 28 年度から二学期制に替えて三学期制を導入する。授業時数の確保。学期ごとに学習の節目を明確にし、学習に集中させる。長期休業前に成績を確定し、学習上の課題を生徒・保護者に提示する。3年次の進路に係る成績（仮評定）を7月末に確定させる。このことにより、更に学力の向上、希望する進路の実現を図る。

## (1) 確かな学力の育成

ア 基礎学力を身につけるための山田B T（ベーシック・タイム 10 分間の朝学習）を継続・発展させる。

※授業アンケートで山田B Tでの「知識や技能が身についた」（4段階評価）の平均 3.1 以上をめざす。中期完成年度には 3.2 以上とする。（平成 27 年度 3.06）

イ 授業での取組み及び山田B T等により、自主的学習の基盤である家庭学習の時間を増加させる。

ウ 英文法基礎及び英文法発展の授業において習熟度別授業を実施する。

エ 国語表現等において少人数展開授業を実施する。

## (2) 授業力の向上

ア 授業充実P Tを核に、本校のめざす授業像「興味関心をかきたてられる授業、わかる授業」を実践する。そのためにアクティブラーニングなど主体的、協働的な学習・指導方法を各教科で取り組む。

※授業アンケートにおける「興味関心が持てた」、「知識技能が身についた」の平均肯定割合を 80%とし、中期完成年度には 80%以上の水準を保つ。

※アクティブラーニングなど主体的、協働的な学習・指導方法の実践を各教科で年間 1 回以上行う。

イ ICTを活用した授業の研究を進める。特に ICTを利用しやすい環境整備に力を入れる。

※ICTを活用した公開授業を年 1 回以上行う。

ウ 「全員による全員の授業観察」を目標にし、パッケージ研修を継続するとともに、公開授業、授業研究を進める。また、授業充実P Tを核として教科枠を超えたベテランと若手のチームによる相互研鑽の方法を研究する。

※他の教諭の授業観察を行った教諭の割合を 100%。研究授業・公開授業の実施回数を年間 5 回以上とする。

エ 学校経営推進費事業により、校内の ICT環境を整備することで、授業における知識の習得を効率化し、アクティブラーニング・協働学習の時間を充実させる。そのことで生徒の学習意欲を喚起し、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の育成、学力の向上を図る。もって希望進路実現率を向上させる。また、B T学習（英語と国語の朝の 10 分間学習）とも連動させて、漢検・英検における 2 級・準 2 級の合格者を増加させる。

※中期完成年度には国立大学合格者数を 30 名に、関関同立大合格者数を 150 名にする。

※英検（2 級 10 名、準 2 級 100 名）及び漢検（2 級 30 名、準 2 級 100 名）の合格者を増加させる。

## (3) 3年間を見通したキャリア教育

ア 選抜性の高い大学進学を中心とする生徒・保護者の進路希望に対応する。

イ 補習・講習（課業日の早朝や放課後、長期休業）を組織的・計画的に実施する。

※学力生活実態調査を各学年、年 2 回実施し、その分析会を行う。

※全国レベルで生徒の学力を診断できる実力考査を各学年、年 1 回以上実施する。

ウ 卒業生の実態把握を進め、同窓会と連携したキャリア教育を実施する。

※卒業生によるキャリア講演会を実施する。

エ 1 年次の秋の校外学習を進路学習と位置づけ、学習への意欲を喚起する場とする。

## (4) グローバル人材の育成

ア 語学研修を引き続き実施するとともに、姉妹校である Bentleigh junior college との交流を深め英語を用いたコミュニケーション力を育成する。

## 2 豊かでたくましい人間性のはぐくみ

## (1) 部活動や特別活動を通じ、生徒の「自尊感情」を高め、他者の役に立っているという有用感、困難を乗り越えることのできる力を育成する。

ア 部活動加入率を中期目標完成年に 90%以上とし、それを維持・継続する。（平成 27 年度 89.6%）

## (2) 生徒会活動の活性化

ア 体育祭・文化祭の活性化を図る。

## (3) 生徒指導の強化

ア 遅刻指導を継続強化する。

イ 服装頭髪指導を継続強化する。

ウ 交通安全指導を継続強化する。

## (4) 校内美化の推進

ア 生徒の美化意識を高め、校内美化に努める。

## (5) 人権尊重の教育の推進

ア 生徒が自他の権利を尊重するとともに、社会の一員としての自覚のもとに義務を果たすという基本的姿勢の形成をめざす。

## (6) 安全で安心な学びの場づくり

ア いじめの防止・対策：いじめ防止対策推進法に則り、学校としていじめを許さない体制をとる。問題事象が発生した時は、ケース会議により早急に対策を練り実行する。

## 府立山田高等学校

- イ 教育相談機能の充実：定期的にアンケート調査を実施し、生徒の状況把握に努めるとともに、「高校生活支援カード」を利用した生徒支援の充実を図る。
- (7) 始業式・終業式を自己を見つめ、学校生活への意欲を喚起する場、生徒を褒め称える場とする。
- ア 部活動の成果を伝達表彰するとともに校歌を全員で斉唱する。(適宜、昼休みに校歌を流す)

## 3 学校の組織力向上と開かれた学校づくり

- (1) 組織力向上：常に学校組織の見直しを図り、組織の活性化を推進する。
- ア 学年主任会議を創設し、各学年の連携、引継ぎがスムーズにいくようにする。
- ※校外学習を、入学から卒業までの3年間を見通し系統的・計画的に実施する。
- 1年(2回)は春、仲間・クラスづくり、秋は大学見学の進路学習、2年春は修学旅行の事前学習等。3年春は最高学年として学年・クラスの団結づくり等。
- イ 各分掌と各学年のバランスを図る。
- (2) 保護者・地域との連携
- ア 小学生対象の科学入門講座、中学生対象の「楽しいスポーツ芸術講座」、山高杯、山高カップなどを継続発展させる。
- イ 地域の行事へ積極的に参加する。また地域人材の活用について、地域と協議を開始する。
- (3) 教育活動の情報発信
- ア 教育活動の情報発信について、総務部を中心に全校的に取り組む。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]  | 学校協議会からの意見   |
|---|--|
| <p>今年度は次の2点の授業改善を柱に学校経営を行った。すなわち、①各教科が ICT 教材の共有化を図り、ICT を活用した授業を更に発展させること。②プロジェクター使用で、板書する時間が削減できる。そのことで生じた時間を生徒主体の授業に取り組むこと。である。</p> <p>(教職員) 平成 26～28 年度を検証すると、「ICT 機器を授業に活用している」の肯定回答率(以下、同様)は 59.3→87.5(28.2%向上)→90.0%(2.5%向上)。「授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」59.3→59.4(0.1%向上)→65.3%(5.9%向上)。「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」59.3→62.5(3.2%向上)→64.0%(1.5%向上)という結果であった。</p> <p>(生徒)「授業でコンピュータやプロジェクターを活用している」60.5→84.5(24.0%向上)→87.3%(2.8%向上)。「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」62.8→69.5(6.7%向上)→65.4%(4.1%減少)。という結果であった。教員と生徒の結果から ICT 機器を授業に活用できている。一方、生徒を主体とした授業の取組みを進めているが、結果としては未だ現れていない状況である。授業時間数から考えて、生徒主体の授業は1単元に1回程度しか実施できないこともあり、数値的には現れにくいと考えられる。今後、一層取組みを推進する。</p> <p>(保護者)年2回の保護者懇談週間には全授業を公開した。さらに保護者対象の授業見学会(51名参加)も実施することができた。「保護者や地域の人が授業を参観する機会を設けている」は88.9%、「授業参観や学校行事に参加した」は88.7%と高い評価を得た。さらに、「学校は教育方針をわかりやすく伝えている」62.8→77.6(14.8%向上)→79.8%へ(2.2%向上)。「山田高校に入学させてよかった」74.0→93.2(19.2%向上)→93.5%(0.3%向上)。これらのことから、保護者が本校のめざす方向を理解し、それに納得していただいていることが読み取れる。</p> | <p>*実施日 第1回(6/23) 第2回(11/17) 第3回(1/27)</p> <p>*委員構成(敬称略)</p> <p>関屋俊彦(会長、大学教授)、笠井一司(地元中学校長)、大中 勇(地元小学校長)、栗原喜幸(地元公民館館長)、瀬川 昇(P T A会長)、西川滋夫(同窓会副会長)</p> <p>第1回(6/23)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業見学を実施。ICT を活用した授業は視覚に訴えわかりやすく、効率的に授業展開できる点が素晴らしい。グループ学習や発表など、生徒が主体的に学べる授業の工夫をして欲しいという要望が出された。</li> <li>同窓会で創立30周年記念事業として、本校校歌をカラオケで歌えるようにしようと動いている。昼休みに校歌を流していることは、よいことだ。校歌に愛着を持ってもらえるようによろしくお願ひしたいという要望が出された。</li> </ul> <p>第2回(11/17)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教室がきれいな印象を受けた。数年後には思考力を問う入試が導入される。教材研究に力を入れ、生徒が主体的に考え、発表する授業づくりをお願いしたい。</li> <li>山田東中学校区地域教育協議会フェスティバルではダンス部と吹奏楽部が出演してくれた。地域障がい者の催しには社会活動部が協力してくれた。公民館の文化祭では書道部と美術部が出展してくれた。さすがは高校生と思わせる作品だった。書道パフォーマンスも素晴らしかった。高校生が関わってくると、小中学生はあんな高校生になりたいと思うようになるし、親もあんな高校に行かせたいと思う。今後も地域連携を発展させて欲しいという要望が出された。</li> </ul> <p>第3回(1/27)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断の結果が伸びている。特に保護者の満足度が高いことは評価できる。</li> <li>授業改善について、教員がお互いに授業を見学し合うのは非常によいことだという意見をいただいた。</li> <li>秋の校外学習で大学見学を行うことは非常によいことだ。生徒の意欲を高めて、目標を持たせて学習活動に取り組ませて欲しいという要望が出された。</li> </ul> |

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|-------|----------|-------------|------|------|
|-------|----------|-------------|------|------|

## 府立山田高等学校

|                     |   |  |   |
|---------------------|---|--|---|
| <p>1<br/>教育力の向上</p> | <p>(1) 確かな学力の育成</p> <p>ア・基礎学力を身につけるための山田BT（ベーシック・タイム 10 分間の朝学習）を継続・発展させる。</p> <p>イ・授業での取組み及び山田BT等により、自主的学習の基盤である家庭学習の時間を増加させる。</p> <p>(2) 授業力の向上</p> <p>ア・授業充実PTを核に、「興味関心をかきたてられる授業、わかる授業」を実践する。そのためにアクティブラーニングなど主体的、協働的な学習・指導方法を各教科で年1回以上行う。</p> <p>イ・ICTを活用した授業の研究を進める。</p> <p>ウ・「全員による全員の授業観察」を目標にする。</p> <p>・公開授業、授業研究を積極的に実施する。</p> <p>エ・学校経営推進費事業により、校内のICT環境を整備することで授業における知識の習得を効率化し、アクティブラーニング・協働学習の時間を充実させる。そのことで生徒の学習意欲を喚起し、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の育成、学力の向上を図る。もって希望進路実現率を向上させる。また、BT学習（英語と国語の朝の10分間学習）とも連動させて、漢検・英検にお</p> | <p>ア・授業アンケートで山田BTでの「知識や技能が身についた」（4段階評価）の平均3.1以上をめざす。（平成27年度3.06）</p> <p>イ・山田BTアンケートにおいて「平日ほとんど学習しない」生徒の割合を40%以下にする。（H27年度53.2%）</p> <p>ア・授業アンケートにおける「興味関心」、「知識技能」の平均肯定割合80%（平成27年度77.5%）</p> <p>・アクティブラーニングなど主体的、協働的な学習・指導方法の実施を各教科年1回以上行う。</p> <p>イ・ICTを活用した公開授業を年1回以上行う。</p> <p>ウ・他の教諭の授業観察を行った教諭の割合100%とする。（平成27年度96.7%）</p> <p>・研究授業・公開授業を年間5回以上実施する。</p> <p>・上記取組みにより、教員・生徒向け学校教育自己診断結果における授業改善に関する質問での肯定率、前年度比10%の向上をめざす。</p> <p>エ・国公立大学合格者数を17名（平成27年度11名）に、関関同立大合格者数を135名（平成27年度127名）にする。</p> <p>・英語検定2級の合格者数を5名（平成27年度2名）に、準2級の合格者を60名（平成27</p> | <p>ア・山田BT（10分間の朝学習）は、週5日のうち英語（単語・英文法）を3日、国語（漢字・語彙）を2日実施することができた。この取組みにより、授業アンケートでの「知識・技能」の評価平均は、3.12（平成27年度3.06）と目標値3.1以上を達成することができた。（◎）</p> <p>イ・「平日ほとんど学習しない」生徒の割合は、1年生6.1%、2年生19.8%、3年生0%、全校生徒の平均は8.6%（平成27年度53.2%）と目標値40%以下を大幅に改善することができた。（◎）</p> <p>ア・授業アンケートにおける「興味関心」「知識技能」の平均肯定割合が82.8%となり、目標値80%以上を達成することができた。（◎）</p> <p>・アクティブ・ラーニング等の主体的・協働的な学習方法による授業を国語、社会、数学、理科、英語、保健体育、芸術科、家庭科、情報科で実践することができた。（◎）</p> <p>イ・ICTを活用した授業研究を国語、社会、数学、理科、英語、保健体育、芸術科、家庭科、情報科で実施することができた。（◎）</p> <p>ウ・「全員による全員の授業観察」をスローガンに、他の教諭の授業観察を行った教諭の割合は60名中58名、96.7%（目標値100%、26年度93%、27年度96.7%）であった。（○）</p> <p>・研究授業は全14回（初任者研究授業4回、フォローアップ研究授業2回、パッケージ研修の研究授業2回、指導教諭研究授業6回）その他若手教員による模擬授業12回や公開授業10回を実施した。授業観察・研究協議により授業改善に取り組むことができた。（◎）</p> <p>・平成26～28年度の学校教育自己診断を検証すると、（教員）「ICT機器を授業に活用している」の肯定回答率（以下、同様）は59.3→87.5（28.2%向上）→90.0%（2.5%向上）。「授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」59.3→59.4（0.1%向上）→65.3%（5.9%向上）。「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」59.3→62.5（3.2%向上）→64.0%（1.5%向上）という結果であった。（生徒）「授業でコンピュータやプロジェクターを活用している」60.5→84.5（24.0%向上）→87.3%（2.8%向上）。「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」62.8→69.5（6.7%向上）→65.4%（4.1%減少）。という結果であった。（考察）教員と生徒の結果からICT機器を授業に活用できている。一方、生徒を主体とした授業の取組みを進めているが、結果としては未だ現れていない状況である。授業時間数から考えて、生徒主体の授業は1単元に1回程度しか実施できないこともあり、数値的には現れにくいと考えられる。今後、一層取組みを推進する。前年度比10%増を達成することは、できなかった。今後の課題である。（△）</p> <p>【今後の課題】</p> <p>・これまで、大阪府教育センターにパッケージ研修支援を4年間お願いしてきた。今後は、校内で研究授業を推進していく。ICT、プロジェクターをどう活用するか研究する。</p> <p>・また、更に生徒を主体とした授業改善に取り組み、学力（思考力、表現力）や人間性を育成する。進路指導と併せて、生徒・保護者が希望する進路の実現を図る。</p> <p>エ・進路指導の取組み及び授業力向上方策により、左記の大学進学目標値を設定した。結果、国公立大学合格者数は京大、阪大はじめ14名（平成27年度11名）、関関同立大合格者数は168名（平成27年度127名）であった。なお、今年はセンター入試に205名が受験。初めて200名を突破した。（26年度162名、27年度197名）（◎）</p> <p>・英語検定2級の合格者数は17名（平成27年度2名）、準2級の合格者は48名（平成27年度</p> |
|---------------------|---|--|---|

## 府立山田高等学校

|  |                           |  |   |  |
|--|---------------------------|--|---|--|
|  | <p>(3) 3年間を見通したキャリア教育</p> | <p>ける2級・準2級の合格者を増加させる。</p> <p>ア・選抜性の高い大学進学を中心とする生徒・保護者の進路希望に対応する。</p> <p>イ・補習・講習（授業日の早朝や放課後、長期休業）を組織的・計画的に実施する。</p> <p>ウ・卒業生の実態把握を進め、同窓会と連携したキャリア教育を実施する。</p> <p>エ・1年次の秋の校外学習を進路学習と位置づけ、学習への意欲を喚起する場とする。</p> | <p>年度42名)にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字検定2級の合格者数を17名(平成27年度10名)に、準2級の合格者を50名(平成27年度33名)にする。</li> </ul> <p>ア・授業充実PTを中心に他校の先進事例の見学に赴き、事例研究を複数回実施する。</p> <p>イ・進路指導部が中心となり補習・講習を組織的・計画的に実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学力生活実態調査を各学年、年2回実施し、その分析会を行う。</li> <li>全国レベルで生徒の学力を診断できる実力検査を各学年、年1回以上実施する。</li> </ul> <p>ウ・卒業生のキャリア実態を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業生によるキャリア教育の機会を年1回以上持つ。</li> </ul> <p>エ・1年次の秋の校外学習を進路学習として実施する。</p> | <p>42名)であった。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字検定2級の合格者数は10名(平成27年度10名)、準2級の合格者は29名(平成27年度33名)であった。(△)</li> </ul> <p>ア・他校の先進事例の見学を10回実施。事例研究や情報提供を行い、授業改善につなげることができた。(◎)</p> <p>イ・授業日の早朝・放課後や土日の講習に加え、3学期制導入により、各学期の成績結果をもとに長期休業中に指名補習や希望講習を実施。進路指導部が中心となり組織的・計画的に実施することができた。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学力生活実態調査を各学年、年2回実施することができた。それを受け、各学年が業者を交えて分析会を行った。(○)</li> <li>全国レベルの実力検査を、3年は6/18、2年と1年は10/22に実施することができた。進路指導に役立てている。(○)</li> </ul> <p>ウ・同窓会と連携し、2/1のLHRで2年生全員に対して、同窓生(3期生、同窓会会長 石井氏)によるキャリア教育講演会を実施することができた。(○)</p> <p>エ・1年次の秋の校外学習等、進路校外学習は、京都大学・同志社大学コース、立命館大学・佛教大学コースを設け、大学見学し、昼食も大学で取った。これを機に進路目標を持って意欲的に学習に取り組みせる。(◎)</p> <p>ア・今年はBentleigh junior collegeの生徒20名と教員3名が来校。本校はホームステイを受け入れ、交流を深め英語を用いたコミュニケーション力を育成することができた。(○)</p> |
|  | <p>(4) グローバル人材の育成</p>     | <p>ア・語学研修を引き続き実施するとともに、姉妹校であるBentleigh junior collegeとの交流を深め英語を用いたコミュニケーション力を育成する。</p>   | <p>ア・姉妹校であるBentleigh junior collegeとの交流を深め英語を用いたコミュニケーション力を育成する。</p>  | <p>ア・今年度はBentleigh junior collegeの生徒20名と教員3名が来校。本校はホームステイを受け入れ、交流を深め英語を用いたコミュニケーション力を育成することができた。(○)</p>  |

## 府立山田高等学校

|                      |                                 |  |  |  |
|----------------------|---------------------------------|--|--|--|
| 2<br>豊かでたくましい人間性のはぐみ | (1) 部活動や特別活動を通じて、豊かでたくましい人間性の育成 | ア・部活動への積極的な参加を促す。  | ア・部活動加入率 90%を継続・維持。(平成 27 年度 89.6%)  | ア・新入生歓迎会でのクラブ紹介、仮入部期間の設定等により、入部率は 90.8% (平成 27 年度 89.6%) となった。全国大会に陸上部、ダンス部 (部門別 3 位入賞) が、近畿大会にバドミントン部が出場を果たした。文武両道をめざし、今後も入部率向上を図っていく。(◎)<br>(参考) 学校教育自己診断の (生徒)「部活動に積極的に取り組んでいる」83.9%、(保護者)「部活動は活発である」94.1%と高い数値であった。  |
|                      | (2) 生徒会活動の活性化                   | ア・体育祭・文化祭の活性化を図る。  | ア・生徒向け学校教育自己診断結果における体育祭・文化祭に対する肯定率 90%以上 (平成 27 年度 92%)  | ア・(生徒)「体育祭・文化祭は楽しく行えるよう工夫されている。」の肯定率は 91.5%であった。(○)  |
|                      | (3) 生徒指導の強化                     | ア・遅刻指導を保護者等と連携・協力して継続強化する。<br><br>イ・服装・頭髪指導を継続強化する。<br>・特にセーター・カーディガン・ベストの統一した指導方針を策定し、指導にあたる。<br><br>ウ・交通安全指導を継続強化する。<br>全教職員による登校時立番を計画的に実施する。 | ア・遅刻総数前年度比 5% 減。<br><br>イ・服装・頭髪違反者なし<br><br>ウ・交通マナー (規範意識) を高め、事故を未然防止する。<br>・生徒向け学校教育自己診断結果における学校規律に関する質問での肯定率 90%以上 (平成 27 年度 94%) | ア・遅刻総数 2535 (平成 27 年度 2262) は、昨年より 12.1%増であった。原因は 3 学期制導入による授業日数 (2 日) の増、テスト返却日 (6 日) も授業を実施し、遅刻をカウントしたことによる。(△)<br><b>【今後の課題】</b><br>・今後、遅刻した生徒はその日の放課後に呼び出して反省文指導 (担任及び生徒指導部指導) を徹底していく。更に、今年度から導入した遅刻 3 回以上で保護者の印をもらうことにより家庭と連携して遅刻指導に取り組む。<br>イ・生徒指導部と生徒会部が連携して服装指導を実施した。生徒の意見も取り入れ、服装指導方針を次のように決めた。5 月と 10 月を合服期間 (夏服・冬服どちらでも可とし、単色のセーター・カーディガン・ベスト着用可) とした。この服装指導方針を実行することができた。生徒主体で、生徒会執行部・風紀委員が定期的に正門・下足室前に立ち、夏服期間、合服期間、冬服期間を周知徹底。生徒たちの意見を取り入れ、生徒たち自ら規律を守る仕組みを整えた結果、服装違反者はいない状況となった。(◎)<br>ウ・教職員が毎月早朝に 1 週間、7 か所に分かれてポイントに立ち、校外巡視を実施。生徒の交通マナー (規範意識) を高め、事故を未然に防止することができた。(◎)<br>・(生徒)「服装、頭髪など学校規律についての指導を守っている」の肯定率は 93.0%であった。(○) |
|                      | (4) 校内美化の推進                     | ア・生徒の美化意識を高め、校内美化に努める。   | ア・毎日の清掃活動を徹底させる。<br>・特にトイレ、廊下、階段などの共用のエリアの美化に重点的に取り組む。<br><br>・三学期制への変更に伴って、終業式後に一斉に大清掃 (年 3 回) を行う。                                 | ア・担当教員の意識を高め、毎日の清掃を徹底させた。(○)<br>・特に、トイレ、廊下、階段などの共用のエリアの清掃を徹底させた。例えば、普段清掃が行き届かないプールトイレについて、体育科教員や水泳部顧問を中心に生徒の指導を徹底させた。また、男子トイレについては、本年度より 2 ヶ月に 1 度尿石除去剤による清掃を技術職員により行わせることにより、悪臭の解消に努めた。(○)<br>・三学期制への変更に伴って、終業式後に一斉に大清掃 (年 3 回) を実施することができた。(○)   |
|                      | (5) 人権尊重の教育の推進                  | ア・生徒が自他の権利を尊重するとともに、社会の一員としての自覚のもとに義務を果たすという姿勢の形成をめざす。   | ア・人権研修会 (生徒参加型) を年 1 度以上実施する。  | ア・人権研修会を 12 月に全学年が体育館において、フリージャーナリストの西谷文和氏を招き、平和学習を実施した。(○)  |

## 府立山田高等学校

|   |  |   |   |   |
|---|--|---|---|---|
| <p style="text-align: center;">3<br/>学校の組織力向上と開かれた学校づくり</p> | <p>(1) 組織力向上：常に学校組織の見直しを図り、組織の活性化を推進する。</p> <p>(2) 保護者・地域との連携</p> <p>(3) 教育活動の情報発信</p> | <p>ア・学年主任会議を創設し、各学年の連携、引継ぎがスムーズにいくようにする。</p> <p>ア・高い評価を得ている小学生対象の科学入門講座、中学生対象の「楽しいスポーツ芸術講座」を継続発展させる。</p> <p>イ・地域との連携を深める。</p> <p>ア・教育活動の情報発信について、総務部を中心に全校的に取り組む。</p> | <p>ア・校外学習を、入学から卒業までの3年間を見直し系統的・計画的に実施する。</p> <p>・平成28年度においては、1年(2回)は春、仲間・クラスづくり、秋は大学見学等の進路学習、2年春は自主性を発揮し、新しい集団作りに向けた取組み。3年春は最後の体育祭に向けたクラスの団結力を高める取組み。</p> <p>ア・小学生講座30名以上、中学生講座200名以上の参加をめざす。(H27年度小学生講座27名、中学生講座170名)</p> <p>イ・地域協議会等へ10回以上参加する。</p> <p>ア・学校説明会を年間20回以上実施する。</p> | <p>ア・校外学習を卒業までに5回実施。1年は2回、2・3年は各1回。1年春は仲間づくり、秋は大学見学等の進路学習。2年春は修学旅行の事前学習。3年春は進路に向けて学年・クラスの団結づくりと3年間を見通した目標を決め、それに沿って各学年が計画を立て実施することができた。(◎)</p> <p>・特に1年秋の大学見学等、進路校外学習は、京都大学・同志社大学コース、立命館大学・佛教大学コースを設け、大学見学し、昼食も大学で取った。これを機に進路目標を持って意欲的に学習に取り組ませる。(◎)</p> <p>ア・地域の小学生対象の科学入門講座として、理科の実験教室を7/25に実施。物理「作って遊ぼうホバークラフト」(摩擦力への挑戦)。化学「作って、遊んで、楽しもう」(化学反応)。地学「アッと驚く視覚体験、見たことのない世界へ」。生物「生きた海洋生物とチリメンモンスターを観察しよう」の4コースに分かれて55名が参加した。(目標値30名以上、平成27年度27名参加)(◎)</p> <p>・9月に中学生対象の「楽しいスポーツ芸術講座」(サッカー、硬式野球、バスケットボール、ソフトボール等)を土日ごとに実施、417名が参加した。(目標値200名以上、平成27年度170名参加)(◎)</p> <p>イ・校長、教頭、PTAが山田東中学校区・地域教育協議会等へ12回参加した。地域フェスティバル(10/22)に吹奏楽部(演奏)、ダンス部(ダンス披露)、PTAが参画(おにぎりと山田高校せんべいの販売)した。また、地域の文化祭に美術部、書道部が出展。その他、地域行事に吹奏楽部をはじめ文化系クラブが地域連携として多数出演した。さらに、地域の保幼小中高が連携して、各校園の入学(園)式、学校行事(運動会)等に参加し連携を深めた。(◎)</p> <p>ア・教育活動の情報発信として、総務部を中心に学校説明会(府立高校合同説明会、本校説明会、塾説明会、中学校説明会等)を全28回実施することができた。特に、本校説明会を10/29と11/12の両土曜日の午前中に授業見学と体育館での学校説明会(人数制限なし)、昼休みは食堂体験、午後からはクラブ見学を実施することができた。(◎)</p> |
|---|--|---|---|---|